

旅立ち

大切な第一歩と共に



© MINAKO NOMOTO 2026

初夏以来、全国各地で「暑い～」と言う猛暑日が続いている今年の夏。

今年の夏は特に暑い日々でした。

皆様におかれましては、お変わりなくお越しのことと察しております。

間もなく「実り豊かな秋」になり、気候等もおだやかに成ることと思います。

日々元気にお越しになることを願っております。

2026年9月吉日

代表理事 黒澤 厚

奨学生訪問

第9期奨学生訪問の様子をご紹介します。

今回は北海道・秋田の奨学生訪問状況をご報告します。



吉井 さつき 様(右)

北海道大学大学院

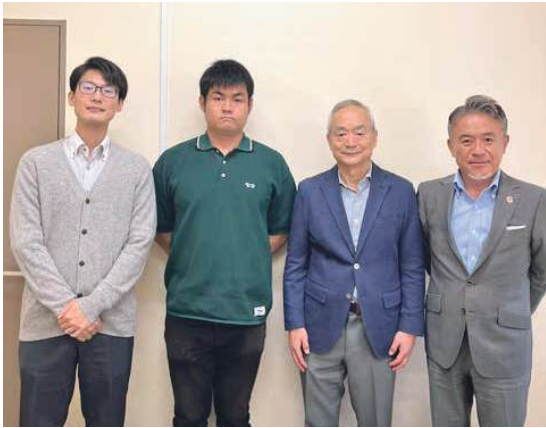
国際広報メディア・観光学院 観光創造研究コース 修士課程

「人がまた会いたくなる環境づくり」をテーマに、北海道の観光を音楽という視点から捉え、他地域と人とのつながりを生み出す研究に取り組んでいます。

将来は民間企業で観光客・企業・地域住民を結び付け、新たな価値を創出する仕事に携わりたいです。

濱崎 小太郎 様(中央左)

室蘭工業大学大学院 工学研究科 博士前期課程



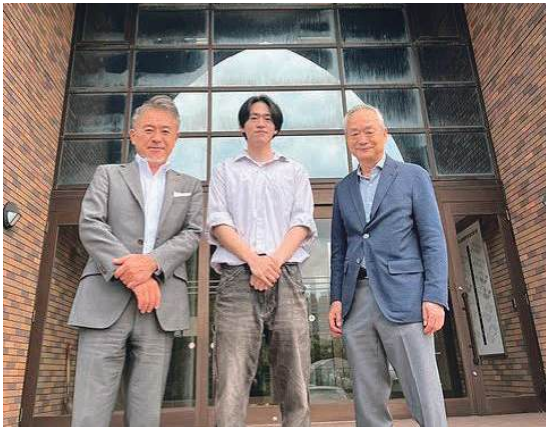
就職先は、地元・盛岡市の橋梁設計会社に決まりました。大手ゼネコンなどへの就職も選択肢にありましたが、「地元に恩返しをしたい」という思いから、盛岡で働くことを決意しました。

現在は橋梁に加え、鉄道レールの研究にも取り組んでいます。地震対策や北海道新幹線の整備にも関わる重要な研究で、JRの研究施設を利用した実証実験を進めています。

クロサワ育成財団には、多様な分野や学年の奨学生が集まっています。同じ第9期生の仲間とも交流を深め、互いに刺激を受けながら成長できる機会がさらに増えることを期待しています。

藪 貴 様(中央)

北海道大学大学院 総合化学院 総合化学専攻 博士後期課程



化学分野の研究者である父の影響を受けるとともに、東日本大震災を経験し、次世代電池の重要性を目の当たりにしました。

現在は北海道大学で、リチウムイオン電池に代わるマグネシウム電池や亜鉛電池、カルシウム電池など、次世代電池の研究に取り組んでいます。8月には、次世代電池の研究者が集う国際会議に日本代表として参加予定です。

ベンチャー企業設立を視野に入れた次世代蓄電池の社会実装を目指し、災害に強く持続可能な社会の実現に貢献したいと考えています。

笹森 務仁 様(中央)

北海道医療大学 歯学部歯学科



現在、大学4学年に在籍しており日々の実習と勉学に追われながら、子育てにも奮闘しています。来年度以降は病院実習および国家試験対策が本格化するため、時間管理と健康管理をこれまで以上に大切にして生活しております。

将来は地元・余市町での開業、または現在の生活基盤である札幌市で勤務医として働くことを検討しております。安定した収入を最優先に考えつつも、一方で歯の再生医療に関わる研究にも携わりたいとも考えています。

クロサワ育成財団には、年齢や家庭状況に関わらず学びの機会を継続的に支えていただけるものであり、深く感謝しております。

大西 知咲 様(中央左)

北海道大学大学院 教育学院 学校教育論講座 修士課程

北原 教授(中央右)〔アイヌ・先住民研究センター〕



中学時代にアイヌに関する書籍に触れ、その言語の美しさに魅了されたことをきっかけに、立命館大学で言語学を学びました。その後、アイヌ文化への理解を深めるため、在学中に北海道大学へ編入しました。

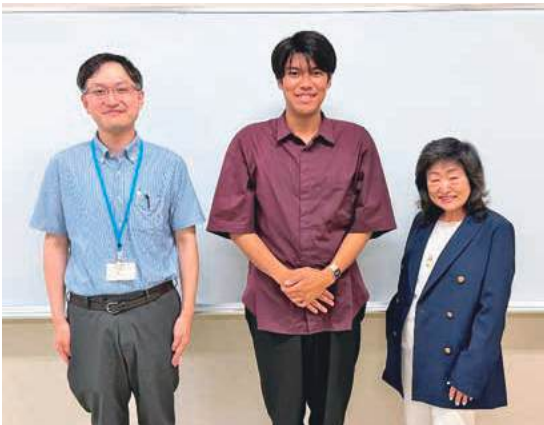
現在はアイヌ民族の言語使用状況が歴史的にどのように変化してきたのかを研究しています。近年は漫画やアニメの影響もあり、アイヌ文化への関心が若い世代にも広がっている一方で、その歴史に目が向けられる機会は依然として少ないことから、歴史的な側面にも関心を持ってもらえるよう研究に取り組んでいます。

修士課程に在籍し、今後は研究をさらに深めながら、自身の進路についても模索しています。

川島 慧大 様(中央)

秋田大学 医学部医学科

林 孝太郎 様(左)〔学生支援・就職課〕



地域によって医療資源や医療情報へのアクセスに大きな差がある現実を目の当たりにし、患者さんにより近い立場で貢献したいとの思いから医学の道を志しました。現在は秋田大学医学部医学科3年生として学んでおり、来年から始まる臨床実習を楽しみにしています。

将来は地域に根ざした医療を実践するとともに、がん領域の研究にも携わり、臨床と研究の両面から社会に貢献できる医師を目指しています。

秋田大学では地域医療やオンライン診療などの先進的な取り組みを学ぶことができ、充実した環境の中で日々勉学に励んでいます。

【第17回】

第8期奨学生の佐伯美緒子さんからメッセージをいただきました。

佐伯 美緒子様

旭川医科大学 医学部医学科 6年

旭川医科大学の佐伯美緒子です。寄稿依頼をいただいた5月上旬、旭川で21年ぶりに市街地に雪が降ったとニュースになりました。やっと雪が溶けたかと思えば、大量積雪であったので北海道の気候の厳しさを再実感しました。

気づけば最終学年の6年生となり、卒業試験や国家試験の準備に追われる日々です。周りの同級生たちは、最後の部活動に励んでおり、その姿を見ると少し羨ましく感じます。

私は社会人からの編入生として、2回目の大学生活を送っていますが、実は在学中に子どもも生まれ、勉学と育児を慌ただしくこなしています。それでも、四季の変化を子どもと共に楽しむことができたのは、私にとって貴重な経験です。

残りの学生生活も、ラストスパートを切る準備が整ってきました。辛い時期もありますが、仲間たちや家族の支えを感じながら、最後まで頑張り抜きます。これからの未来に向けて、一步一步進んでいけるよう努力していきます。



【第7回】 クロサワ育成財団 評議員 黒澤 和枝 様

頼もしい青年に出会えて

黒澤 和枝

今までの奨学生達が優秀で、夢に向かって勉強に励まれていることはよく伺っていたが、今回は実際にお目にかかれる機会を頂いた。

今回の奨学生は慶応義塾大学卒業後、製薬会社で癌の薬の研究をされ、その間に医師達との出会いを通して、将来、過疎地の医療に携わりたいと、医学部への編入という狭き門を突破し、秋田大学医学部2年生の青年川島さんでした。

今は、都会でも医師や看護師不足が深刻、その上、医療機器高騰で、大学病院でも閉めざるを得ない現状が多々あるとのニュースを頻繁に耳にする時代になった。その中で、敢えて医師になりたいとの思いで、片や進学塾の講師で生計を立て乍ら、勉強に励んでいる青年に出会え嬉しかった。

最近は奨学金のお陰で吹奏楽部に加われるゆとりができるようになったとも話して下さった。

今後も陰ながら応援していきたいと強く思った。今回は良い機会を与えられたと感謝の一日だった。



財団からのお知らせ

【第10期奨学生（2026年度）募集のお知らせ】

当財団では、第10期奨学生の募集を行っております。

応募は9月30日(水)必着にて受け付けております。

応募方法などの詳細につきましては、当財団ホームページをご覧ください。

公益財団法人 クロサワ育成財団 事務局／丹治・嶋崎

〒104-0061 東京都中央区銀座6-9-2 クロサワビル11階

TEL：03-6281-5140 URL：<https://www.kurosawfound.or.jp/>

月曜～金曜 午前10時～午後6時 ※年末・年始、祝日、当財団休日を除く

